

熊本県立美術館運営ビジョン実績確認

令和6年度（2024年度）運営分



第2期熊本県立美術館運営ビジョンの概要

基本理念

熊本の宝を守り活用し、
誰もが楽しめる美術館

運営の基本方針

- 1 【展覧会・教育普及】子どもの頃から豊かな感性を育み、多様な人々が集い交流する美術館
- 2 【美術品等の収集・保管・研究】熊本ゆかりの美術品等を収集・保管・調査研究し、永青文庫所蔵品をはじめとする熊本之宝として未来に継承する美術館
- 3 【地域活性化・交流促進】地域と協働し、魅力あるまちづくりを推進する美術館
- 4 【環境・施設整備】安全・安心で安らぎと憩いの場を提供する美術館

推進期間

2024年度～2027年度
令和6年度～9年度

1 子どもの頃から豊かな感性を育み、多様な人々が集い交流する美術館

子どもの頃から豊かな心を育み、五感を使った体験活動等を通して、感性を磨き、感動できるような場の提供。また、美術の多様な見かたや楽しみ方を通して、多様性を尊重できる環境づくりを目指すとともに、海外等からの来館者など、多様な人々の交流を促進。

- (1) 展覧会活動
 - 総合美術館としての展覧会の充実
 - 県民の芸術への関心を高める鑑賞機会の充実
 - グローバリゼ化、多文化共生社会への対応
- (2) 教育普及活動
 - ① 学校や地域と連携した活動の充実
 - 鑑賞・体験活動
 - 学校団体観覧活用プログラム等の提案・情報提供による美術学習支援
 - ② 幅広い年齢層が美術に親しむための取り組み
 - 美術館所有図書を活用した普及啓発
 - 創作・発表の場としての交流活動
 - 美術師友の会・サポーターボランティアとの連携
 - ③ ホームページやSNS等の活用推進

2 熊本ゆかりの美術品等を収集・保管・調査研究し、永青文庫所蔵品をはじめとする熊本之宝として未来に継承する美術館

永青文庫や熊本ゆかりの優れた美術品等の散逸を防ぎ、調査研究し、熊本之宝として未来に継承するとともに、文化財の災害対策を推進。

- (1) コレクションの充実
 - 美術品等の計画的な収集・保管・公開
- (2) 収蔵品の調査研究・成果の公開・活用
 - 調査研究等
 - 研究成果の公開・活用
- (3) 県内美術品等の調査研究と文化財保存活動
- (4) 専門性を高める取組み

3 地域と協働し、魅力あるまちづくりを推進する美術館

地域との交流や他の文化観光施設との連携により、魅力あるまちづくりを推進。また、県民の美術館活動への関心と理解を深めるとともに、交流人口の拡大を図るため、展覧会や各種活動に関する積極的な情報発信。

- (1) 熊本城周辺文化観光施設としての地域の活力向上への寄与
- (2) 団体集客の推進
- (3) 美術館活動の情報発信

4 安全・安心でやすらぎと憩いの場を提供する美術館

来館者にとってやすらぎと憩いの場となる美術館をめざす。展覧会の鑑賞のみならず、来館者が美術館という空間を快適に楽しめるよう、ホスピタリティの向上推進。

- (1) 施設の適切な管理と快適な環境の整備
 - 安全・安心の確保
 - 誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場の創出
 - 付帯施設
 - ミュージアムショップの充実
- (2) 施設の有効活用
- (3) 来館者満足度の向上
 - 展覧会やサービスに関する評価に基づく改善
- (4) 経営的視点による運営・管理
 - 収益の向上、外部資金（助成金・補助金）の活用等
- (5) ビジョンの指標と自己評価
 - 目標観覧者数の達成
 - ビジョンに掲げた事業の実績確認

ビジョン 実績確認シート

1	【展覧会・教育普及】 子どもの頃から豊かな感性を育み、多様な人々が集い交流する美術館 子どもの頃から豊かな心を育み、五感を使った体験活動を通し、感性を磨き、感動できるような場の提供を目指す。また、美術の多様な見かたや楽しみ方を通して、多様性を尊重できる環境づくりを目指すとともに、海外等からの来館者対応の一層の充実と多様な人々の交流を促進する。
---	---

ビジョンへの取組 (1) 展覧会活動 ○総合美術館としての展覧会の充実 ○県民の芸術への関心を高める鑑賞機会の充実 ○グローバル化、多文化共生社会への対応



実績 (1) 展覧会活動 ○特別展として以下の2展を開催した。 ・「超写実 ホキ美術館名品展」 ・「美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」展 ○「ホキ美術館名品展」では、近年注目される写実絵画を展示し、現代美術の多様性を紹介した。 ○「美術館に行こう！」展では、子どもたちにも知名度の高い絵本原画等と当館所蔵品を併せて展示し、芸術への関心を高めた。 ○「細川・美術館コレクション展」を2期開催。当館が所蔵する美術品や細川コレクションの魅力を発信した。
--

(2) 教育普及活動
①学校や地域と連携した活動の充実 ○鑑賞・体験活動 ○学校団体観覧活用プログラム等の提案・情報提供による美術学習支援 ②幅広い年齢層が美術に親しむための取組み ○美術館所有図書を活用した普及啓発 ○創作・発表の場としての支援活動 ○美術館友の会・サポーターボランティアとの連携 ③ホームページやSNS等の活用推進

(2) 教育普及活動
○学校団体の受入(116校、2,552名) ○スクールミュージアム(8校、820名) ○ミュージアムバス(3校、113名) ○制作系ワークショップ「子ども美術館」(特別展に併せて2回、62名) ○鑑賞ワークショップ「かぞくでアート」(5回、144名)。「美術館に行こう!」展では、絵本の読み聞かせイベントを実施(対象は大人から幼児まで)。 ○古代の鑄造方法をチャョコレート作りで学ぶワークショップ ・一般向けワークショップ(38名) ・関係者向け研修会(42名) ○当館所蔵品を活用した「アートカード」について、「かぞくでアート」での活用に加え、教育現場・医療現場でのデモンストレーションを実施し、活用拡大を図った。

今後の課題等

(1) 展覧会活動 ○特別展については、今後も様々な文化芸術分野の展覧会開催を目指す。また開館50周年に向け、地域に根ざした自主企画特別展の開催を目標に、調査研究と準備を進める。 ○コレクション展については、当館及び細川コレクションの魅力を発信すべく、新たな切り口を模索するため、所蔵品についての調査研究が必要。また、当該研究成果を小規模に発表できる小企画展の開催を目指す。 (2) 教育普及活動 ○学校団体受入、スクールミュージアム、ミュージアムバス、子ども美術館、かぞくでアートについては、当館での「定番」として継続するとともに、より多くの子どもたち・学校が利用できる体制づくりが必要。
--

ビジョン 実績確認シート

2	【美術品等の収集・保管・研究】 熊本ゆかりの美術品等を収集・保管・調査研究し、永青文庫所蔵品をはじめとする熊本の宝として未来に継承する美術館 永青文庫や熊本ゆかりの優れた美術品等の散逸を防ぎ、調査研究し、熊本の宝として未来に継承するとともに、文化財の災害対策を推進する。
---	---

ビジョンへの取組	
(1) コレクションの充実	○美術品等の計画的な収集・保管・公開
(2) 収蔵品の調査研究・成果の公開・活用	○調査研究等 ○研究成果の公開・活用
(3) 県内美術館等の調査研究と文化財保存活動	



実績	
(1) コレクションの充実	○「熊本県立美術館収集方針」に基づき、熊本ゆかりの美術工芸品・歴史資料を中心に収集。 具体的には、肥後鐺や牛島憲之の油彩、浜田知明のペン画・油彩、加藤清正の書状など、購入した5点に加え、寄贈を受けた10点を収集。併せて収集作品の情報をデータベース化し、インターネット上で公開。
(2) 収蔵品の調査研究・成果の公開・活用	○「研究紀要」第15号を発行し、学芸員らによる調査研究の成果や収蔵品を公開。
(3) 県内美術館等の調査研究と文化財保存活動	○県内所在の仏像調査、富重写真所資料の継続調査に加え、肥後金工師の一派である林家資料を調査。

(4) 専門性を高める取組み

(4) 専門性を高める取組み
○専門知識向上を図るため、学芸員1名が「国立美術館キュレーター研修」を受講。

今後の課題等	
(1)コレクションの充実 ○収蔵庫の保管スペースが年々不足しており、美術品取得基金の残額も目減りしているため、今後は分野バランスなどを考慮の上、作品を厳選して収集していく必要がある。 (3)県内美術館等の調査研究と文化財保存活動 ○展覧会開催のための調査に関わらず、調査研究を継続的に実施できる環境を整えていく必要がある。 ○富重写真所資料の調査を継続し、文化庁及び関係機関と連携の上、資料の保管体制を整えていく必要がある。	

ビジョン 実績確認シート

3	【地域活性化・交流促進】 地域と協働し、魅力あるまちづくりを推進する美術館 地域との交流や他の文化観光施設との連携により、魅力あるまちづくりを推進する。また、県民の美術館活動への関心と理解を深めるとともに、交流人口の拡大を図るため、展覧会や各種活動に関する積極的な情報発信を行う。
---	--

ビジョンへの取組	
(1)	熊本城周辺文化観光施設としての地域の活 力向上への寄与
(2)	団体集客の推進



実績	
(1)	熊本城周辺文化観光施設としての地域の活力向上への寄与
	○月1回の熊本城周辺施設連携会議に出席し、各施設間で情報共有を行った。当館からは展覧会ポスターやチラシ、広報誌『View』を配布。 ○得られた情報については、チラシを館内に配置する等して来館者へ周知を図った。 ○この丸広場でのイベント時には、当館展覧会の広報活動(チラシ配布)を実施。
(2)	団体集客の推進 ○以下の団体による利用促進を図ることができた。 ・熊本県教育委員会等による福利厚生事業等を活用した団体利用 ・展覧会協賛企業の研修としての利用 ・児童・生徒による団体鑑賞

(3) 美術館活動の情報発信

(3) 美術館活動の情報発信
○各展覧会のポスター・チラシ、年間スケジュール、広報誌『View』を作成し、県内学校・ホテル、県外美術館等へ配布した。 ○SNS(X及びInstagram)で展覧会・イベント情報に加え、展覧会の裏側を紹介する投稿を行う等、幅広い層に届くよう発信内容を工夫した。 ○当館発行物やウェブサイト以外にも、新聞・雑誌・テレビ・ラジオ等の各種媒体を活用し、広範な情報拡散に努めた。

今後の課題等	
(1) 熊本城周辺文化観光施設としての地域の活力向上への寄与 ○熊本城周辺施設と連携したイベントなど、人流が循環するような枠組みの定型化が必要。 (2) 団体集客の推進 ○地元の関係団体の研修や学校教育での鑑賞につながるような広報の強化が必要。 ○団体旅行の増加につながるよう、旅行会社への働きかけの強化が必要。 (3) 美術館活動の情報発信 ○幅広い年齢層が美術館情報を受け取れるよう、更なる情報発信手法の見直し・多様化の検討が必要。 ○SNS発信については、来館動機につながるバリエーション豊かな配信を行うべく、職員全員でコンテンツを作成・配信できる体制づくりが必要。	

ビジョン 実績確認シート

4	【環境・施設設備】 安全・安心でやさぎと憩いの場を提供する美術館 来館者にとってやさぎと憩いの場となる美術館をめざす。展覧会の鑑賞のみならず、来館者が美術館という空間を快適に楽しめるよう、ホスピタリティの向上を推進する。
---	---

ビジョンへの取り組み	
(1) 施設の適切な管理と快適な環境の整備	○安全・安心の確保 ○誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場の創出 ○付帯施設 ○ミュージアムショップの充実
(2) 施設の有効活用	



実績	
(1) 施設の適切な管理と快適な環境の整備	○毎朝ミーティングを実施し、警備・受付・監視・設備管理等の担当間で情報共有と連携を図った。緊急時には随時連絡を取り合い、発生した事案に適切に対応した。 ○樹木調査の結果を踏まえ、関係機関と協議を行い、樹木を伐採した。 ○展覧会の内容に応じて授乳スペースを増設するなど、未就学児を含む幅広い来館者に対応できる環境を整えた。 ○カフェでは展覧会をイメージした期間限定メニューを提供するなど、カフェと美術館が連携しカフェの活性化を図ることで、来館者確保や満足度向上を図った。この結果、展覧会を実施していない期間においても、カフェや装飾古墳室などの利用があり、憩いの場として機能した。 ○売れ筋商品を調査し、適切な在庫管理を行う他、新規商品を販売し商品ラインナップを拡充した。
(2) 施設の有効活用	○熊本市商業金融課など関係団体とユニークイベント企画を実施した(館内吹き抜けロビーにおけるコンサート)が、二の丸広場の別イベント音響の影響により中止。 ○特別展では館内にグラフィックシートやカットアウトを設置し、フォトスポットとして来館者に楽しんでもらえる空間づくりを行った。

(3) 来館者満足度の向上
○展覧会やサービスに関する評価に基づく改善
(4) 経営的視点による運営・管理
○収益の向上、外部資金(助成金・補助金)の活用等
(5) ビジョンの指標と自己評価
○目標観覧者数の達成 ○ビジョンに掲げた事業の実績確認

(3) 来館者満足度の向上
○各展覧会のアンケート36件をもとに要望を集約し、作品展示の充実、わかりやすい解説、子ども向け展覧会ワークシートの作成、会話しながら鑑賞できる時間設定などに反映した。 ○結果として、通期での「展覧会満足度」の高評価(5段階評価中5及び4)は94.4%、「解説のわかりやすさ」の高評価は77.7%となった。
(4) 経営的視点による運営・管理
○開催した2展の特別展はいずれも出資した金額以上の還付金を得た。
(5) ビジョンの指標と自己評価
○2つの特別展における観覧者数は、いずれも目標を上回った。 ○展覧会を実施していない期間においても、装飾古墳室などの無料エリアやカフェの利用者が来館し、施設として継続的な利用が見られた。

今後の課題等

(1) 施設の適切な管理と快適な環境の整備 ○今後も開館前に受付・監視・警備担当者に対しミーティングを毎日実施し、日々の業務上の気づきや発生した案件・対応状況など情報共有を図り、早急に必要に対応ができるような体制の構築が必要。 (2) 施設の有効活用 ○ユニークベニューの実施に向け、イベントの実施時期や時間帯、飲食を伴う場合の場所設定など、具体的な課題の整理が必要。 ○IPM(総合的害虫管理)対策を講じながら、いかにしてテラスの活用を図るのか検討が必要。
